

部活動の外部指導者について

部活動顧問と生徒との触れ合いは、授業やクラス担任より緊密な面があり、生徒の授業中とは違った部分や成長ぶりを目にするのができ顧問の喜びとなっている。一方で顧問の時間的負担は非常に大きく、過重労働の一因にもなっている。また、自分が経験していない競技を担当することになると、精神的なプレッシャーになり顧問を辞退したり、部活動に顧問が顔を出さず生徒だけの活動になっている現状がある。これら教師の負担軽減のために、外部指導者の導入は重要な意味を持つと思われる。

★外部指導者の導入について

外部指導者は部活動の意義や目的等を理解し、学校教育の一環として顧問の負担を軽減することをきちんと把握できる人であること。

①生徒や保護者からは技術指導を要望されることが多いが、部活動はそれだけではないことを理解できる人

②「命(けが)」「人権(いじめ、差別)」「生活習慣(あいさつ、準備・後始末)」の3点に配慮できる人

③競技力アップを優先しすぎると、オーバーワークになりやすい。厳しさと同時に立ち止まることも必要だと考えられる人

④そのためには教えすぎないことがポイント。「なぜできないのか」「どうすればうまくできるか」を生徒に考えさせ、試行錯誤させる時間を与えることができる人

⑤生徒の運動能力、考え方は千差万別。個々のレベルに応じて「全力を出し切る」「初戦突破」「ベスト8進出」「優勝」と生徒それぞれに達成可能な目標を示し、実現できれば評価してやることのできる人

⑥練習試合や公式戦の引率を支援できる人も外部指導者として扱う。その場合、生徒との関係づくりのため日常の部活動を見守ることのできる人が望ましい

このような点から、外部指導者には教員OBで「子どもたちとのかかわりを

持ち続けたい」と思っている人が最適と思われる。また、スポーツ推進員の中にも適任者がいるだろう。「スポーツは楽しむもの」という原点からスタートした総合型地域スポーツクラブにも人材があるだろう。

学校支援地域本部(学校応援団)の協働活動として、地域の人材を発掘・活用する。そのためには学校の要望をコーディネーターを通して地域に発信することが第一関門。PTAを通すのも一案。校長や教頭の人脈を活用するのもいいだろう。

★目的の共有……部活動の目的をきちんと伝え、指導方針を共有する

★スケジュール……部活動や学校行事のスケジュールを事前に打ち合わせ、無理のないように努める

★処遇……中体連等の公式戦に於いてベンチ入りを可能にし、生徒にアドバイスできるようにする

★謝金……ボランティアとはいえ遠征費や交通費等を全て外部指導者負担では長続きはしない。なにがしかの謝金は県が予算化すべき

★保険……スポーツ安全保険に加入し、外部指導者の負担を軽減する必要がある

★全県一律導入でなく、学校の実情に応じて対応、導入した場合、教員の勤務状況や生徒の反応等、外部指導員導入の効果を判定し継続するかどうかを見直す

